

学校教育目標	「友情わく かわく 希望わく 毎日わくわくする学校」 (友情わく) <徳>約束を守り、自分や友達を大切にする子を育てます。 <開>共に学び、さまざまな人とつながる子を育てます。 (かわく) <体>命を大切にし、元気な体をつくる子を育てます。 (希望わく) <知>めあてに向かって粘り強く挑戦する子を育てます。 <公>仲間のために役に立とうとする子を育てます。				
	創立 57 周年	学校長 渡辺 正規	副校長 小池 靖彦	2 学期制	一般学級：18 個別支援学級：5
学校概要	児童生徒数： 577 人 主な関係校： 下瀬谷中学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	下瀬谷中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分づくりに関する力> <他人(友達)との関係づくり> <社会(地域)とのかかわり>	下瀬谷中学校 瀬谷さくら小学校	主体的に地域とともに学ぶ子 (具体的取組) ①地域防災拠点小中合同防災訓練 ②小中合同授業研究会 ③小中交流での職業体験、出張授業、部活動体験、授業参観、基礎学習会

中期取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども一人ひとりの思いを大切にしながら、対話的な学びを充実させます。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽しく、分かる授業づくりを推進します。 ・「できた」という喜びで自己肯定感を高める授業づくりを行います。 ・子どもの表現を大切にしながら、伝え合う力を育てます。 ○交流・つながりを大切にして、児童の自己有用感を高めます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ペア学年活動、個別支援学級児童の交流学习、保護者ボランティア、地域の方々等との交流を大切にします。
--------	---

重点取組分野		具体的取組
知	授業力向上	①単元や一単位時間で育成を目指す資質・能力を明確にした授業づくりをする。②中学年の算数少人数・TT、高学年の教科担任制を通して、複数の目で児童を見取るようにするとともに、教師の授業力を磨く。③重点研究テーマを「自ら進んで学ぼうとする子を育てる授業のあり方」とし、全教科の基盤となる言語能力の向上について国語科を中心に研究する。
担当	研究研修部	
徳	道徳教育	①豊かな心の育成を目指して、道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を推進する。②多様な体験活動を通して、他者とのかかわりや自己を見つめ、規範意識や自尊感情を高められるようにする。③ペア学年活動や個別支援級児童の交流を活発にする。
担当	指導部(人権・福祉)	
体	健康教育	①「わくわく外遊び」など、友達と外で遊ぶことを推奨し、心身ともに健康な生活を送れるようにする。②健康安全の日の放送を通して健康に関心をもち、実践する意欲を育てる。③体育学習の充実を図る。
担当	体育部	
公開	キャリア教育	①地域で体験的に学ぶ機会を積極的に設け、他者とのかかわりの中で自分の思いを表現しながら、一人ひとりが自己有用感を高めるようにする。②「自分づくりパスポート」を活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、子ども自身の変容や成長を自己評価できるようにする。
担当	研究研修部	
いじめへの対応		①日常に潜むいじめについて積極的に認知し、子どもの心情に寄り添うことを徹底する。②月1回以上定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、認知された案件の経過報告を丁寧に行うことで再発防止に努める。③学年・児童支援専任教諭・養護教諭を中心とした組織的な対応、早期発見、情報共有に努める。
担当	いじめ防止対策委員会	
人材育成・組織運営(働き方)		①学年の中での役割分担をもとに、それぞれが思いをもって提案する学年研究会を組織し、その充実を図る。②専門委員会をもとに、主幹教諭が各部会をリードしていく組織を活性化させる。③4年次以下の職員を中心にメンターチームを組織し、主体的な運営を促す。
担当	教務部	
特別支援教育		①一般学級と個別支援学級の連携強化に向けて、学年研究会時を中心に打ち合わせを積極的に行う。②個別支援学級の学習環境や子ども達の様子を全職員で確認し、ユニバーサルデザインについての理解を深める。③障害を理由に、授業に参加できない状況にないか常に教育活動を見直し、誰一人取り残すことなく、授業に参加できるように取り組む。
担当	特別支援教育委員会	
児童指導		①「瀬谷第二小スタンダード」が、現在の社会情勢に沿うものであるか検討し、分かりやすい表現に直すとともに、子どもたちの考えたスタンダードを取り入れる。②職員会議内に児童理解の内容を定例化し、児童の状況を共通理解する。③「Y-Pアセスメント」を活用し、多面的な児童理解と具体的な支援・指導を実践する。④不登校児童、家庭へのこまめな連絡をし、学習の支援の在り方を探り、学びが継続できるようにする。
担当	指導部(児童指導)	
地域学校協働活動		①学校運営協議会を組織して、地域の方々連携して児童の育成につながる教育活動を実践する。②保護者・地域と連携し、持続可能な見守り活動等、安全対策の充実を図る。
担当	安全・連携部	